

ODAはどのように相互利益に貢献してきたか？

【戦後】

経済的国益の追求

アジア諸国との友好関係の再構築や、日本の輸出振興

「東アジアの奇跡」と呼ばれる経済発展に貢献

タイド支援などの課題も

【90年代】

国際益・貧困根絶

貧困削減や平和構築、個人を守る「人間の安全保障」が重点課題に

顔が見えない、などの課題も

【2000年代】

国際益・国益の バランス



市民社会が担ってきた相互利益への貢献

- ① 最も支援が必要な層への貢献＝途上国の人びとにとっての利益
- ② 平和、環境、国際保健分野などでの取り組み＝地球規模の利益創出

⇒日本への信頼構築と国際評価向上に寄与（国益）

- ③ 政策への市民の民主的な関与と参画

ODAが重視すべき価値：

⇒市民社会の国際協力・ODAに対する基本的な認識



- 人道的視点の強調
 - 道義的責任の視点
 - ODAの公的資金としての役割
 - 人間の安全保障
-
- ✓ ユニバーサルな価値に重き
 - ✓ 政府・国単位ではなく、市民・地域単位

国際協力・ODAに関する意識調査

**平和で安定した国際社会の確保、
人間の安全保障・普遍的価値の重視、多国間の協力などが上位**

【SCJ『国際協力に関する意識調査』2025年3月実施、約2万人、インターネット調査会社委託】

- 国際協力が必要な理由：国際社会の平和と安定のため
- 国際協力の原則：基本的人権や民主主義に負の影響を与えないこと
- 日本の国際協力が重点を置くべき分野：教育、保健医療などの社会サービス分野（次点で人道支援）

【内閣府『外交に関する世論調査』2025年9月実施、約1,700人、郵送による調査】

- 開発協力が必要だと思う理由：災害や感染症など世界的な課題に対して、各国が協力して助け合う必要があるから

（SCJ）他国と友好な関係を築くため（4割）、日本の平和と安定のため（4割弱）

（内閣府）エネルギーの安定供給に資する（4割強）、重要な外交の手段（3割弱） ←男性の方が高い傾向



相互利益の観点で日本のODAの役割を
考える時に・・・

※日本の国家像を踏まえつつ、理想を掲げ
ることが必要ではないか？

中立で、
誠実で、
信頼される
ミドルパワー

- ① 直接的な軍事行動・攻撃を避ける
- ② 人類がこれまで積み上げてきた叡智（基本的
人権の尊重、民主主義、法の支配など）を
擁護
- ③ 重層的な国際ネットワークの構築

⇒包括的かつ持続可能な形での日本の安全保障につながる

日本の国家像に資するODAを ～国際益と国益の重なりを「拡張」していくことが必要なアクション

- ① 行き過ぎた、狭い国益（自国ファースト）の追求は、逆に国益を損ねる
- ② 平和国家日本のレピュテーションの維持・拡大のためのODA
（人道支援・復興支援）
- ③ ソフトパワー（日本に対する尊敬や信頼）の堅持・強化のためのODA
民主主義や人権、法の支配といった普遍的価値を守る
- ④ 各国・国際機関との協力によるODA
（複数の資金源の組み合わせによってスケールアップ）
- ⑤ 途上国の人びと・日本の人びととのオープンな関係を維持したODA
（信頼される「顔の見える」支援）